さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者：三和地区社会福祉協議会
会長　泉水　房治
編　　集：三和地区社協　広　報　部
事　務　局：三和保健福祉センター内
（サンハート内）
電　　話：0436－37－7100

運転免許返納

ひとごとで済ませられますか？

今年3月に返納しました

新生町会
高石恒男さん（86歳）

【 高石恒男さん 】

Q　返納決断の背景は？

A　子供達に進められた事もあるが、自身でも高齢者の悲惨な事故のニュースにふれ、家族に心配や不安を与えたくないと思ったから。

Q　いざ返納してみて感じることは？

A　正直、車に乗れない不便さを痛切に感じたよ。勿論、通院等家族の協力はあるが、家族にも都合がある。そうした調整にも気遣いは必要。自分の思い立った時に行動出来ない辛さもあるよ。

現在思案中です

山倉町会
根本一宇（かずたか）さん（78歳）

【 根本一宇（かずたか）さん 】

Q　免許返納について、どう思いますか？

A　どうすべきかは考えますね。特に腰に疾患があるので、足に異常を感じたら返納します。

他人を巻き込んだ事故報道を見るにつけ、当事者にはなりたくないと思いますから。

Q　返納に踏み切るには何が一番必要ですか？

A　日々の買い物や通院の足が確保できないのが最大の問題だね。

利便性を考えた地域交通システムが整えば免許返納も容易になる。

返納を促す仕組みを行政として考えて欲しいね。

今年1月に返納しました

光風台4丁目北町会
高橋善次郎さん（82歳）

【 高橋善次郎さん 】

Q　返納決断の背景は？

A　免許更新のために認知症検査まで受け、実技試験に臨むつもりでいたけど、車が故障し、修理費が発生するので更新を断念しました。

Q　いざ返納してみて感じることは？

A　一番感じるのは、交通の不便さだね。本当に何とかして欲しいと思う。

今後、人口高齢化は進む一方であることを考えれば、地域全体の課題として如何に改善していくべきかの視点を捉えるべきでしょう。

私も1月に返納しました

光風台4丁目南町会
平　知美さん（82歳）

【 平　知美さん 】

Q　返納決断の背景は？

A　健康上の理由ですね。

Q　いざ返納してみて感じることは？

A　何よりも交通の不便さですね。帝京病院に通院していますが、バスの本数が少なく1日仕事になってしまうの。

考えてみよう！地域交通環境

三和地区の高齢化率は、加茂・南総につぎ3位（40．2%・65歳以上）と高い。当然、運転免許返納年齢層も相対的に多い。一方、車に替わる公共交通インフラは未整備と言える。今回、市が提唱するデマンドタクシーについて考えてみる機会を提供したい。

市施策 デマンドタクシー は救いとなるか

デマンドタクシーのイメージ図

注）個人負担金/1乗車はそれぞれ地域運営組織により異なります。

以下、市原市交通政策課発行資料より抜粋

市原市では、（中略）地域住民・交通事業者・行政等が適正な役割分担のもと、（中略）持続可能な交通手段の確保を進めています。

具体的には、交通空白地域の生活交通確保のため、地域住民が主体となって運営する公共交通の導入支援（中略）を推進します。

地域住民による公共交通の運営

デマンド型乗合タクシー等（中略）の導入、運営については、（中略）地域住民が主体となり、市がその取組みを支援する協働体制をとっています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

市原市内では、下表に示す3地区が実運営をしております。今後、地域交通課題を検討される地区・地域では地域住民の声を地区社協・小域ネットワーク推進委員会等へ寄せて頂ければ幸いです。

利便性には改善の課題を残す

三和地区として唯一この制度を導入している養老地区の黒沼さん（運営事務局長）に取組み状況を伺ってみました。

【 黒沼　純　さん 】

養老地区のデマンドは、10町会（地区全町会）の賛同の下、運営委員会を設置して運行しています。

実運用面では色々と制約があり、必ずしも利便性が良いとは言えない側面もあります。

それは①交通空白地域（別途詳細規定あり）との関係。②予め設定された目的地のみでの運行。③事前予約が必要等、いくつかの制約事項に基づく運行となっています。

勿論、それらは地域運営組織・交通事業者・行政との導入協議時点で決められるものの、目的地は自由意思で決められるものではありません。

実際の運行経費の処理は、町会負担金＋利用者登録負担金を資本金とし、利用料金（定額）と国及び市補助金で清算される仕組みです。

運営側には、これらを取りまとめる用役提供が必要となります。

デマンド型乗合タクシー運行実績（H30年度）

＜データ提供；市原市交通政策課＞

		戸田地区	養老地区	市津地区
利用状況	登録者数	106名	254名	432名
	利用者数（延べ人数）	171人	434人	387人
	運行回数	137回	316回	328回

9月16日は敬老の日

毎年9月第3月曜日は祝日法に定められた敬老の日。そこで今回、地区内の元気なご長寿さんに健康の秘訣を伺ってみました。

光風台5丁目東町会

藤井　喬さん（96歳）
房子さん（92歳）
ご夫妻

Q　お生まれは？

A　喬さん↓私が大正12年、妻は昭和2年生まれです。

Q　健康上で気になる点はありますか？

A　房子さん↓お陰様で2人共、今のところ特に気になる点はありません。

喬さん↓あえて心配点を挙げれば、92歳で免許を返納して以来、交通の不便さを体感していることでしょうか。

Q　お元気の秘訣は何でしょうか？

A　喬さん↓趣味を大切にすることかな。私は油絵を描くことが好きで、絵画展にも作品を出品しています。

房子さん↓私は刺繍が好きで、サンコミで教室を開き、9人の生徒さん達と楽しい時間を過ごしています。

結局、2人とも趣味を通して元気を頂いているように思いますね。

※喬さんに生活心情を伺うと、『なくてはならない人になれ』とのこと。今は、奥様がなくてはならない存在とか。

【　趣味を活かす藤井さんご夫妻　】

二日市場町会

御園生　猶平（なおひら）さん（96歳）

Q　お生まれは？

A　大正12年、関東大震災の年です。

Q　健康上で気になる点はありますか？

A　特にありません。

Q　お元気の秘訣は何でしょうか？

A　気を付けていることは、①風邪をひかない。（ドライヤーで喉仏に刺激を与える）②食べ過ぎない。（腹八分に医者いらず）③転ばない。（毎日スクワット10回を3セット）

Q　1日の過ごし方は？

A　朝5時起床、新聞（日経・読売・朝日）を読む朝食、30分の散歩、昼食、30分の昼寝、農作業の手伝い、夕食、入浴、日記をつける、夜8時には就寝です。

人生百歳時代、これまで培ってきた自信と信念を持って一歩一歩ゆっくりと歩んで行きたいと思います。

【　御園生猶平（なおひら）さん　】

新生町会

斉藤　千枝子さん（89歳）

Q　お生まれは？

A　昭和5年生まれ

Q　健康上で気になる点はありますか？

A　お陰様で医者通いもなく、薬を飲むこともなく健康そのものです。

Q　お元気の秘訣は何でしょうか？

A　余り細かいことを気にせずにおおらかに過ごすこと。そして町会内の同じ歳3人で楽しくお茶飲みすること。

【　斉藤千枝子さん　】

クワを使って畑仕事もしてますよ。

ご近所さんが気遣って声を掛けてくれます。ありがたいことですね。

つい甘えて、またティータイムです。

回顧録

シリーズ ①

元日本航空　国際線パイロット
前田　佳正

本号より、新シリーズとして4回にわたり光風台在住の前田佳正氏に寄稿を依頼。日本航空パイロットという異色の職歴とその半生を回想頂きます。

私は昭和16年に名古屋市に生まれ、7人兄妹の二男として育った。

幼少期は勉強も嫌いではなく、中学から高校への道は大学進学を目指し、高校は普通科を選択した。

部活動は、ハンドボールに熱中した。そのことが、後の進路に影響するとは知る由もなかった。

体育系の部活はきつい側面もあったが、体力を鍛え忍耐強さを与えてくれた。だが、その結果、自信を持って臨んだ大学受験に遭えなく失敗。予備校へ通う日々となった。

予備校までは路面電車で通ったが、そんなある日車窓から「自衛隊航空学生募集」のポスターを目にした。別に憧れたわけでもなく単なる度胸だめしのつもりでの受験だった。当然、親にも内緒だった。

2月初旬、合格通知が来た。叱責を覚悟で初めて親に相談した。母には危険な職業として反対されたが、父は「自分の人生だから自分で決めればよい」と言ってくれた。私が初めてパイロットを目指す決意を固めた瞬間だった。

ハンドボールに熱中　これが人生の転機に

昭和36年、第7期航空学生として海上自衛隊へ入隊。呉にて3ヵ月間、自衛官としての一般訓練を受けた後、館山・奈良と拠点を替えながら航空力学や気象学、通信工学等、必要な知識の習得に専念した。

実機による訓練は、T34型と呼ばれるプロペラ機だった。この訓練では、飛行時間15時間以内に単独飛行の認定が得られなければパイロットへの道が閉ざされる厳しさもあった。

過酷な訓練にも耐え昭和39年5月、晴れて海上自衛隊パイロットに合格。入隊時の同期生103名中、合格者は39名だった。

〔次号へと続く〕

寄稿　さわかぜに寄せて

気迫で歩いた1,200キロ

浅井小向町会　渡邊　正

【　渡邊　正さん　】

4年前、春と秋の2回に分け、徳島↓高知↓愛媛↓香川の遍路みちを歩いた。都合47日間1200kmにおよぶ歩行だった。

四国遍路はその昔、弘法大師（空海）が、庶民救済の方便として、「路をあまねく」循環式霊場として施されたとされる。

1番札所霊山寺（徳島）から88番札所大窪寺（香川）まで、海や山の大自然の中をひたすら歩く旅だった。

よく仲間内からは、みそぎの旅と冷やかされたが、実のところ自分の平凡な人生にひとつのアクセントを付けたいとの思いと、歴史ある遍路への憧れに似たロマンを抱いた事がきっかけだった。

道中は地図をたよりに道しるべを探し、人々に尋ね歩く。宿は宿坊や遍路宿を利用。1日に歩く距離を考え、事前に予約する。平坦路の場合35kmほど歩いた事もあった。

宿での楽しみは、疲れを癒す風呂と食事。そして何より、遍路仲間との人生を語る貴重な交流だった。

尋ね歩いたすべての寺院は、それぞれが歴史を物語り荘厳だった。頂いた御朱印は結願の証し。そして高野山で満願となる。

何としてもやり通す気迫が支えとなり、非日常の世界を味わう事が出来た。

71歳を迎えた今は只々感謝の日々。

【　遍路みち山あいから、はこんな眺望も　】